

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
131	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
Alcohol use and related harms in school students in the USA and Australia 児童生徒における飲酒と関連有害事象について;アメリカとオーストラリアの比較から	
<b>執筆者</b>	
Toumbourou JW, Hemphill SA, McMorris BJ, Catalano RF, Patton GC	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
Health Promot Int. 2009 Dec;24(4):373-82. Epub 2009 Nov 2	
<b>キーワード</b>	
飲酒、アルコール乱用、青少年、アルコール政策	
<b>要 旨</b>	
<p><b>背景:</b> 若者の飲酒・薬物使用に関する精密な国際比較研究の手法に基づいた研究ほとんど見られないことから、州を代表する児童生徒をオーストラリアとアメリカで標本抽出し比較した。</p> <p><b>方法:</b> 小学校5年生、中学1年生、3年生を2002年に断面調査により、州を代表する方法にて、それぞれ別々にマッチさせて、アメリカワシントン州(2,866名)、オーストラリアビクトリア州(2,864名)を抽出した。</p> <p><b>結果:</b> ワシントン州の小学5年生(11歳)の男児10.3%(95%CI 7.2-14.7)、女児5.2%(3.4-7.9)に過去1年間に飲酒の報告があった。一方、ビクトリア州では際立って高く、男児34.2%(95%CI 28.8-40.1)、女児21.0%(17.1-25.5)であった。ワシントン州に比べ、ビクトリア州の生徒は2-3倍有害行動(飲酒、喫煙、不法薬物)を示し、中学3年生では制御できない飲酒、大量飲酒(5杯以上で頻回エピソード)、飲酒に関連した負傷が2-4倍高かった。ビクトリア州における若年飲酒の高い率は、飲酒頻度、大量・有害飲酒、アルコールや違法薬物への暴露が全般的に高いことと関連していた。</p> <p><b>結論:</b> これらの調査から、青少年の誤った飲酒や関連物質の使用の両面に相当な国際差があることが明らかとなり、アメリカで見られた少年の飲酒や薬物使用の低値に寄与した方策を明らかにする国際研究の必要性が示された。</p>	